

今回の探検先は… ●探検実施日：2009年8月10日(月)

りそな銀行 東京本社

りそなグループは、りそな銀行、埼玉りそな銀行、近畿大阪銀行を有する日本で第4位の金融グループ。「真のリテールバンクの確立」を目指し、グループ一丸となって様々な取り組みを行っている。東京都千代田区大手町にある、りそな銀行の東京本社には、りそなホールディングスの中枢機能が集まっている。

◆◆◆小学生のイメージする仕事像

アイテムしごと探検隊では、実際の職場を訪問するだけでなく、子供達が仕事についてディスカッションする時間を大切にしている。「スーツ」「残業」「通勤ラッシュ」「お金をもらう」「家族のために働く」……今回隊員に選ばれた子供達が、仕事という言葉から思い浮かべたイメージが、また、隊員のほとんどが、自分でも仕事をしてみたいという積極派だった。続いて、今回の訪問先である銀行の仕事についても話し合った。「銀行は3時に閉まっちゃうけど、その後は何をしているの?」「人のお金を預かるってどんな気持ち?」など、子供達は銀行の仕事にも興味津々だ。



◆◆◆1億円の重さは10キロ!

このあと全員が向かったのは会議室。前の机には、布をかぶったかたまりが置かれている。隊員から「1億円だ!」と歓声があがる。布をとったあとに出てきたのは、パッケージされた1万円札の束。井上さんによると、重さは約10キロだとか。1億円を初めて見て、子供達はドキドキ。



◆◆◆緊張感いっぱい!のダイリソングループ

次に見学したのはダイリソングループ。部屋に入ったとたん、ピリリとした緊張感が漂い、子供達も妙な顔つきになる。ここで働く人達は、一人で何台ものパソコンのモニターに目を配り、いくつものキーボードを操作している。

「ここでは外貨などを取引しています」と説明してくれたのは総合資金部の池田さん。



小学生隊員が見た責任感と緊張感あふれる銀行の仕事



「ここで誰かが走り回るだけで、異常事態ととらえ、すぐに警備員が飛んできます」と井上さん。頑丈な設備と万全の警備で、貸金庫室は24時間守られているのだ。

◆◆◆重厚な扉と堅固な警備に守られた貸金庫

新宿にあるアイテム本社から大手町のりそな銀行へバスで移動。いよいよ探検が始まった。まず、東京営業部の井上さんと岡部さんの案内で、2班に分かれて見学する。井上さんに案内された班が最初に向かったのは、地下一階の貸金庫室だ。円形の扉の重さは、なんと4.5トン。許しを得て、隊員の一人が全体重をかけて押してみるが、扉はほんの少しずつしか動かない。お客様の大切なものがしまつてある貸金庫室は、火事はもちろんのこと、大地震でビルが崩れても大丈夫なのだそう。

◆◆◆窓口の後ろには130人

次に見学したのは、2階の窓口フロア。窓口で仕事をしている人は数人に見えたが、しきられた壁の後ろにはたくさんの机が並んでいる。ここで働く人はおよそ130人。窓口と関係の深い預金や送金を行う部門や、会社の融資など貸出しを担当する部門がある。貸出し担当の人達は外回りが多く、見学した時間は空席が目立った。そしてここにも、重厚な扉を備えた金庫室があった。中には鉄格子があり、その奥には鍵のついた耐火金庫が並んでいる。ここで扱ったお金は、一円も過不足のないことが確認された上で、毎日この金庫に保管されているのだ。



◆◆◆銀行員としての責任感と誇り

最後は質疑応答の時間。「銀行は、社会の中でお金がうまく動くように手助けをする役割を担っています」と、銀行の仕事をわかりやすく説明してくれたのは、コーポレートコミュニケーション部の大村さんだ。「りそな銀行と他の銀行の違うところは?」という隊員に、「お客様が一番に考えているところ」と大村さんは胸を張る。閉店時間を午後5時までに延長したのも、お客様の要望が多かったからだという。「銀行の仕事で一番難しいところは?」との質問には、「お客様に信頼してもらうことが一番大切で一番難しい」と、新都心営業部の本多さんが答えてくれた。社会の中で大きな役割を果たす銀行。その中で働く人々の緊張感や責任感、そして誇りを、子供達は感じ取ってくれたようだ。



子供達は、皇居や東京タワーなどを一望できる役員室も見学した。会長室や社長室などはそれぞれガラス張りになっていて、個室内の様子が同じフロアのどこからでもよく見える。役員秘書の遠藤さんが、「役員一人ひとりがお互いどんな仕事をしているかがわかるようになっていきます」と説明してくれた。

◆◆◆ガラス張りの役員室

さまざまな情報を収集し取引を行うために、一人5台程度のパソコンが必要なのだという。「銀行に入ってから、勉強することがたくさんあります」という池田さんの言葉に、子供達は真剣に聞き入っていた。

感想コーナー

- 「働く」とは、自分の仕事に責任を持ち、信用してもらえらる事。銀行の仕事は信用で生きるものだと感じた。(蓮池くん)
- 働くってとても大切なこと! 銀行も他の仕事でも、働いている人がいるから生活ができていくのだとわかった。(二村さん)
- 私達が銀行に預けたお金が他の人に銀行を通して貸していると思うと、銀行はすごく役に立っていると思います。働くとは、責任を持っているということだと思います。(中島さん)
- 普段見れない銀行を見て良かった。同じ班の人と協力できたし、金融の事をもう少し調べてみようと思った。(佐藤くん)
- 私達が普段生活しているのは、大人の人達が一生懸命働いてくれるから。「人の役にたつ」というのが、働くってこと!とわかった(山田さん)



りそな銀行 東京営業部
東京営業第二部
マネージャー 岡部 博憲さん

いらっしやいませ! りそな銀行東京営業部には元気な探検隊の子供達が集まりました。子供達の真剣な眼差しや積極的にメモを取る姿勢にうたれスタッフ社員一同、案内に気合が入りました。1億円の現金、4.5トンもある貸金庫室の扉、普段は見ることのできない銀行窓口の裏側…たくさんの宝物を見ることができたと思います。

●「アイテムしごと探検隊」ご協力のお願い

(株)アイテムでは、訪問先としてご協力いただける企業・団体を募集しております。子供達が「仕事」について考える機会と一緒に提供して頂けませんか?

お問い合わせはアイテム広報室まで ☎0120-938-989